

高温・長時間入浴による死亡事故



高体温や出浴時の脳血流減少などによる意識障害で、浴槽から出られなくなったり、浴槽内にしゃがみこんだりします。体温の上昇はお湯が熱いほど早くなります。



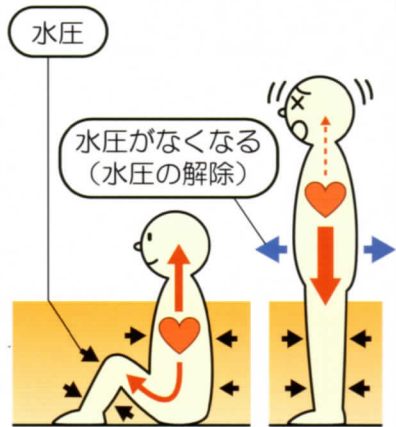
水没あるいは顔を水中に漬けて溺水します。



ショックによる心停止あるいは溺死にいたりします。

お風呂から急に立ち上がるとなぜ頭がくらくなるのか？

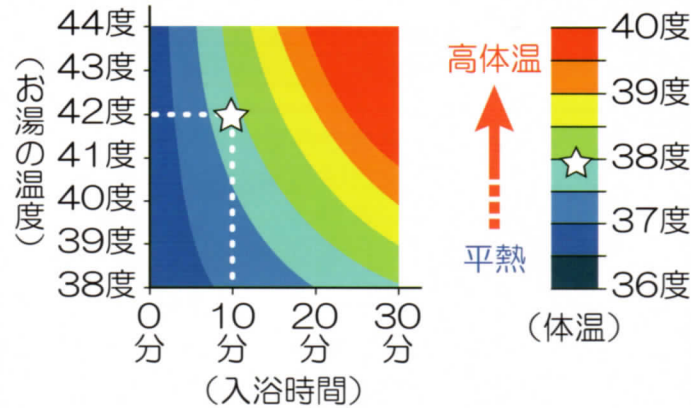
入浴中にはお湯で体に水圧がかかっています。その状態から急に立つと体にかかっていた水圧はがなくなり圧迫されていた血管は一気に拡張します。すると脳に行く血液が減り(脳血流減少)脳は貧血となり一過性の意識障害を起こします。



入浴は身体を清潔にしたり温めたりリラックスできる等、良い効果がいっぱいですが。しかし入り方を間違えると命に係わる可能性があります。

入浴時間と湯温と体温の関係

お湯が熱いほど体温は早く上昇します。



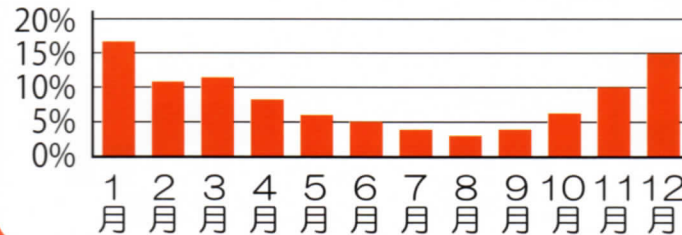
体温の変化をお湯の温度と入浴時間でシュミレーションすると、10分入浴した場合体温が38度近く(☆)に達します。

お一人での高温浴は危険です。41度以下で10分以内に上がる様に気を付けましょう。

(文科省科研費挑戦的萌芽研究No.22656125)

浴槽内での死亡事故の発生時期

11月～3月、冬の寒い時期に特にお年寄りの死亡事故が多いことが知られています。



(平成20年～22年の日本法医学会調査より)

気をつけて！ 冬のお風呂の 死亡事故



- 年間1万9千人の高齢者が浴槽内で死亡
- 入浴事故を未然に防ぐ安全対策
- もしもの時の対処



厚生科学指定型研究
入浴関連事故研究班

日本法医学会・日本温泉気候物理医学会・日本救急医学会